

潮音寺だより

第 239 号
平成 15 年 9 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



生きて身を

はちすの上に

やどさずば

念佛まうす

甲斐やなからむ

【出典】派祖西山上人御歌

写真：正田勝彦

ふと出会った
蓮の花の

いうにいわれぬ
その清楚な姿に

心洗われる
思いをしたこと
ありませんか？

そんな
蓮の花にも似た
芳しい

心の持ち主に
出会ったこと
ありませんか？

念仏を
お念仏を
唱えましょう

心に
蓮の花を
咲かせましょう

蓮花一話

蓮の花を、初めて見た時、中学生の頃だったでしょうが、いつにいわれぬ、不思議な感動を覚えたことを記憶しています。極楽浄土に咲く花として、絵に描いたものや、常花として、木や金属でかたどったものは、寺の堂内のそこかしこにありましたから、見慣れているはずなのに、実際に見た、すくっと伸びた莖から、楚楚と咲くその花は、色づいて、形づいて、まさに浄土からの風に乗ってきた芳香をかぐような思いをさせてくれたのです。

で、紹介いたします。

……………

「ーサラ国のある林の中で、一人の修行者が、眼病にかかりました。医者に診察してもらった、」

「蓮池の側について蓮の香りをかいでおれば、自然に治る。」

といわれ、さっそく林の近くの蓮池のほとりに座り、紅蓮の花の、得もいわれぬ芳しい香りを風のまにまにかいでおりました。

すると、この蓮池の主である神が現れ、修行者に怒っていいました。

「私に一言の断りもなへ、なぜ蓮の香りをかぐのだ。おまえは盗人だ。」

修行者は、反論していいました。

「蓮を傷めるわけでもなへ、取るわけでもなへ、遠くで香りをかい

でいるだけで、なにゆえに盗人なのか。」

すると、蓮池の主がまたいいました。

「求めもしなければ、許しも受けず、黙って匂いをかいでいる。それがほんとの盗人だ。」

こういつて一人が問答している最中に、一人の男が、ずかずかと池の中に入り込み、池中をかき回し、蓮の花や根を山のように抱え込み、そのまま黙って行ってしまいました。しかし、池の主は、この狼藉に対して、一言の嫌みもいいませんでした。

そこで修行者は、

「花をむしり、根を抜いたこの男をどがめず、なにゆえ私をどがめるのか。」

といつて池の主は、答えていいま

した。

「黒い衣は汚れても、人はさほどに思わない。白い衣が汚れば、人はすべからず田をつける。今の男は悪人で、黒い衣を着けている。お前は、白い衣を着けた、淨い善人で、少しの汚れでも、すべわかる。」
修行者は、これを聞いてたいそう喜んでいました。

「ありがとうございます。あなたは、私のための善知識だ。どうかいつまでも、私のために教えの言葉を聞かせてくれまいか。」

すると、池の主は、答えていきました。

「私は、お前の奴隷ではない。お前のそばにいついていて、お前を教えるいわれはない。お前のことはお前がやるがよい。」

修行者は、池の主の言葉を聞いて

深く喜び、林の中に入って、修行に専念した結果、ついに大いなる悟りを得たといふことです。

……………

子どもを叱ると、よく反論してゝる言葉」、

「なんで、ボクだけ…」

というのがあります。たいていの大人は、これをいわれると、黙ってしまうか、ゲン「ツ」の一撃を加えるのが通例のようであります。

戦後の教育の中で、自由平等といふことが重要視され、徹底教育された結果、自由平等こそ正しいと信じて疑わない人が実に多くいます。ですから、そのような教育を受けた親たちは、子どもに「なんでボクだけ」といわれると委ねてしまつては、

平等であることは、確かにすば

らしいことです。しかし、すべてに当てはめて考えると、「お手々ないで徒競走」のような、変な平等観念を是としてしまつことになりません。

仏さまには、「仏さまの物差し」があると聞いたことがあります。それは、測る対象となる人に応じて、伸びたり縮んだりするのです。つまり、「コーサラ国の修行者のように、道を究めるべき人を測る物差しと、極悪人を測る物差しとでは基準が違つのです。

今度、子どもから、「なんで、ボクだけ」といわれたら、「このお話を聞かせてあげて下さい。そして、蓮の花が咲く季節、実際に、浄土から吹く風に乗って漂つてくる、蓮の花の香りを、胸いっぱいにかがせてあげて下さい。」

浄土

私たちが住むこの娑婆世界を「穢土」というのに対し、仏の住む清らかな世界を「浄土」といいます。

浄土と聞くと、私たちはまず、西方十万億土の彼方にある阿彌陀仏のすむという極楽浄土を思い出し、

が、じつは、經典に説かれている浄土はそれだけではありません。

例えば、阿しゅく仏の住む東方妙喜世界、薬師仏の住む東方淨瑠璃世界などは、それぞれの仏の浄土です。

また、弥勒菩薩の住む兜率天や観音菩薩の住むといつ補陀洛山なども浄土の一種といつてもいいでしょう。

住職通信

善行は、他人への施しだと思つてはならぬ。ただ、自分の義務を果たすにすぎぬ



大乘仏教では、悟りを開いて涅槃に入った仏は、それぞれの浄土を持つと考えられています。おもしろいのは、ちょうど封建時代の藩主のように、一人の仏に一つの浄土と決まっていることですね。

ところで、浄土には、もう一つのきえ方があります。それは『維摩経』などに説かれているように、この汚れているように見える私たちの娑婆世界も、悟りを開いた眼で見れば、そのまま浄土となっているという立場です。それを「心浄土浄」とか「娑婆即寂光」といっています。『法華経』に説かれている「靈山浄土」、「華嚴経」の説

く「華嚴感世界」なども、そうした考え方の系譜にある浄土だといえるでしょう。『仏教事典百科』

雑記

感謝 その11



新築庫裏へのご寄付を、熊澤田鶴子様、小島牛郎様、伏谷幸七様より頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。ちなみに、伏谷様は、雁道で提灯を製造されている方で、これまでも本堂に、大きな盆提灯を幾つもご寄付いただいています。

表紙

以前、堀川シャチでもお世話になりました、足田勝彦様より提供いただきました。

届けよと

十万億土法師蟬 沐魚